



第2回 公益社団法人 大阪府看護協会

2020年4月からスタートした特定行為研修を組み込んだ新たな認定看護師教育（B課程）。連載第2回では、従来の「救急看護」と「集中ケア」を統合した新分野「クリティカルケア」の教育機関である大阪府看護協会と研修者に話を聞いた。

ニーズに応えクリティカルケアを開講

2005年から救急看護認定看護師教育を実施してきた大阪府看護協会。2020年からスタートする新課程開講にあたり高橋弘枝会長は「ニーズの高まりを肌で感じていたため、迷いはなかった」と振り返った。

A課程を13年間、2018年からは特定行為研修を行ってきた経験が大いに生かされたが、実際は「カリキュラム作りには骨が折れた」と苦労もあった。eラーニング、認定看護師および特定行為研修の実習については「いつ、どのように組み込むのか、時間をかけて知恵を絞りました」と話すのは同教育課程の主任教員を務める西林百合さん。そのかいあって、最終的に短期でしっかり学べるカリキュラムになったと自信を見せる。

また同教育課程では、看護管理者や受講希望者を対象とした受講後の修了者の活用に関する

事前ガイダンスを実施した。寄せられたさまざまな疑問に、丁寧に対応したこともあり、B課程開講の初年度にもかかわらず、定員を上回る50人から応募があった。現在、第一期生として33人が受講している。

新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、開講式翌日から全ての授業をオンラインに切り替えた。研修者がeラーニングをスケジュール通りにこなせるよう「eラーニング視聴スケジュール」を提供。さらに、演習を受ける前にもどかのeラーニング講義を受けておく必要があることを示す「演習・講義対照表」も準備した。こうした同教育課程の対応は好評で、受講中の黒柳祐史さん（医療法人澄心会 豊橋ハートセンター所属）は「1日何コマ視聴したらよいか、目安が分かり安心して勉強できましたし、演習前にもどかの講義を視聴しておく必要があるか等も対照表を使えば一目で確認できて助かりました」と話す。

「救急」と「集中治療」の橋渡しを

愛知県にある豊橋ハートセンターは循環器内科、心臓血管外科を専門とし、24時間救命救急体制を敷いている。同センターに勤務する黒柳さんは看護管理職経験もある経験豊富な看護師だ。長年、CCU（循環器疾患集中治療室）で看護を提供してきたため、当初は集中ケア認定看護師（A課程）を目指したという。しかし、救急看護分野と集中ケア分野が統合し、クリティカルケア分野（B課程）となることを知り、集中治療看護の強化だけでなく、救急看護分野の知識・技術や特定行為研修により自らの



「eラーニング視聴スケジュール」と「演習・講義対照表」

幅が広がると考え、B課程の受講を決意した。

黒柳さんは受講過程を振り返り「救急領域の同期から、救急看護の思考プロセスをじかに学べたことが大きなメリットです」と話す。所属施設の系列には、管理職となった認定看護師がおり、組織横断的に教育や指導に活躍している。修了後は管理・指導的な役割も担いつつ、外来と横断的に関わり「救急」と「集中治療」の橋渡しができる人材になることを目指す。

黒柳さんは「クリティカルケア」という新分野について「活躍できるフィールドが未知数な面もありますが、後輩のためにも、悩むより学んで開拓者になろうと思います」と意気込みを語る。高橋会長も「やると決めれば、やるための知恵が出てきます。B課程は実践力のある認定看護師を養成できるので、迷っている教育機関の方々には開講に前向きに取り組んでいただきたいです」とB課程修了者を各地で増やすべく、教育機関へ呼び掛けた。

教育課程概要：2020年4月よりクリティカルケア認定看護師教育課程（B課程）を開講。研修者33人。